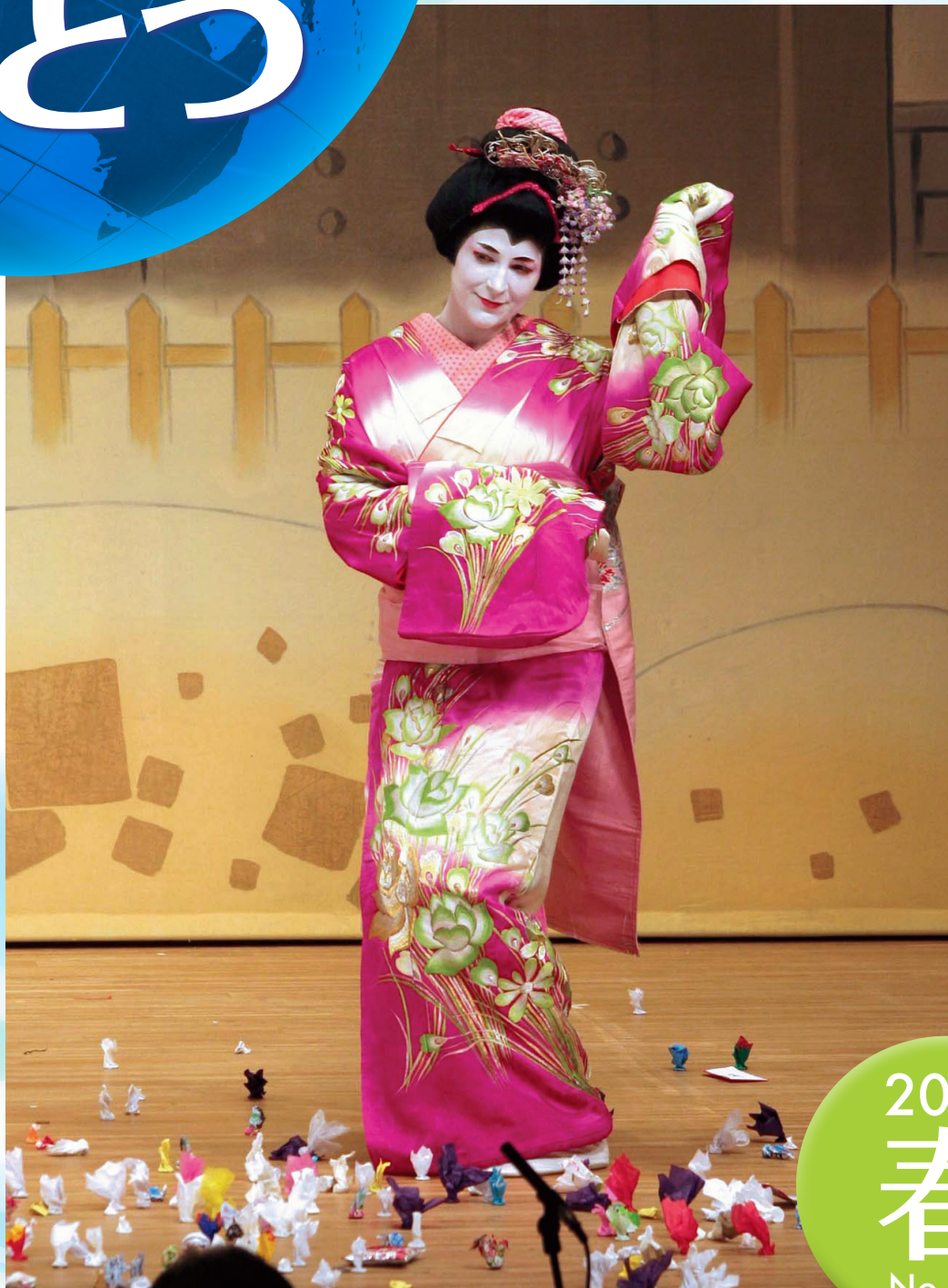


(公財)岐阜県国際交流センター
国際交流情報誌

世界は ひとつ

日本語版

恵那市教育委員会 外国語指導助手
Jessica R. DeMers
ジェシカ レイ デメルスさん



2012
春
No.122

発行／公益財団法人 岐阜県国際交流センター【略称 GIC】

〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル2階
TEL 058-214-7700 FAX 058-263-8067
トリオフォン 058-263-8066
E-mail gic@gic.or.jp URL www.gic.or.jp

開館
案内

開館 日～金曜日 9:30～18:00
休館 土曜日、祝日、年末年始

※平成24年4月から祝日は休館となりますので、
ご了承ください。

就学前事前準備指導事業

外国籍児童の教育をサポートする一環として、NPO可児市国際交流協会に委託して、就学前事前準備教室(プレスクール)を実施し、その指導者の育成を併せて行いました。

外国にルーツを持つ就学前(小学校に上がる前)の児童を対象として、ひらがなの勉強や、小学校での生活に必要な事柄を、実際のクラス形式で実施しました。

教室運営だけでなく指導者を同時に養成することは、全国的にも新しく、モデル事業として継続的に実施していく予定です。

日にち 平成23年11月～平成24年3月末
11月～12月 指導者への事前講習
1月～3月は教室運営(実習)

場所 可児市多文化共生センターFREVIEWA

参加者 [指導者]

外国にルーツを持つ児童にかかわりたい人

[就学前の児童]

外国にルーツを持つ児童 22名

児童への指導内容

- ・先生とのコミュニケーションに必要な日本語指導
- ・学校に通うための準備指導



岐阜県外国人コミュニティリーダー等育成研修

～岐阜県外国人コミュニティリーダー会議～

日にち 平成24年2月5日(日)

場所 じゅうろくプラザ 4F 研修室1

参加者 22名

ファシリテーター

一般財団法人ダイバーシティ研究所
代表理事 田村 太郎



これまで外国人コミュニティリーダー等育成研修を通して、岐阜県の外国人コミュニティ活動の活性化に取り組んできました。今年度のコミュニティリーダー等育成研修を受け、地域課題についてそれぞれの課題や考えをもつ外国人住民が集まり、「教育」「医療・福祉」「多文化共生のコミュニティづくり」をテーマに協議しました。参加者には個々に興味のあるテーマに分かれてもらい、グループごとに課題の洗い出しと共有、課題が解決されるための必要な取り組みを議論してもらい、最後にはグループごとに内容を発表してもらいました。

また、アドバイザーとして参加していただいたグローバル人材サポート浜松の代表理事の中島イルマ氏より、現在の浜松での取り組みを講義していただきました。参加者からは、「がんばっている方の話を聞いて勇気をもらい、自分ももっとがんばって少しでも助けてあげられる人がいれば手伝いたいと思った。」という声が多数聞かれました。

災害時語学サポーター研修



大地震や大規模災害が発生した場合、たくさんの外国籍の方々も被災者となるのが想定されますが、言葉の違い等による情報不足や文化・慣習の違い、災害経験の少なさといったことから、外国籍住民特有の対応が必要であり、災害時の対応について地域としてどうすべきかが課題となっています。

こうした中、災害が発生した際、外国籍住民に対して的確な情報提供や支援ができるよう、災害知識を擁する語学ボランティアを発掘し、その育成を図るための「災害時語学サポーター研修」を岐阜市、(財)岐阜市国際交流協会の協力のもと開催しました。

また、岐阜市、(財)岐阜市国際交流協会及び当センター主催で外国人を対象に防災訓練や避難所の雰囲気体験する「災害時の避難所体験」も併せて開催しました。

日にち：平成24年3月3日(土)

会場：岐阜市市橋コミュニティセンター 防災会議室/2階大集会室

講師：(特活)多文化共生マネージャー全国協議会 副代表理事 高木 和彦 氏
理事 高橋 伸行 氏

参加者数：23名(ブラジル：7名、中国：2名、フィリピン：2名、日本12名)

岐阜市で大地震が起きたことを想定し、災害多言語支援センターを立ち上げ運営する練習をしました。地図を見ながら避難所の場所を確認し、避難所にいる外国人の聞き取り調査をどのように行うかグループで話し合いました。また災害対策本部で出された日本語の情報を、いろいろな国籍の方に情報が行きわたるよう多言語化する練習も行いました。翻訳した情報を避難所体験参加者に伝え、困ったことはないかと、聞き取り調査をするなど実際に災害が起きたときにサポーターとしてどのように行動するのか体験しました。

★参加者の声

語学力が大切だと思っていたが、それ以前に情報の把握、優先順位などを的確に判断する力や臨機応変な対応が求められるのだと強く感じた。



医療通訳サポーター研修「医療通訳訓練バーチャル病院で医療を学ぶ」

医療通訳は医者と患者をつなぐ大切な役割があります。また、医療通訳は専門用語も多く、命にかかわる問題であるため、様々な知識が必要となります。

今回、昨年12月に開催した医療通訳研修に引き続き、岐阜大学医学部共催、岐阜市、(財)岐阜市国際交流協会の協力のもと、平成24年3月11日(日)に医療通訳サポーター研修「医療通訳訓練バーチャル病院で医療を学ぶ」を開催しました。

参加者は、病院における診察方法を学んだり、実際に医療器具を見たり触ったりして、エコー、AED、縫合などをバーチャル病院で体験し、医療通訳に必要な日本語を深く学びました。

日にち：平成24年3月11日(日) 会場：岐阜大学医学部

参加者数：38名

(ブラジル：15名、中国：3名、フィリピン：5名、ペルー：3名、アメリカ：1名、日本：11名)

★参加者の声

普段は体験できないことを学べ、非常によい経験になった。また、患者に対してどのように通訳をしたらよいか勉強になった。



日本語学習支援コーディネーター研修

地域日本語教室を推進するためには、コーディネーターが重要な役割を担います。今回、東海日本語ネットワークの米勢治子氏を講師に迎え、「日本語学習支援コーディネーター研修」を開催しました。コーディネーターの位置づけや役割を理解し、「対話中心の活動」をグループワークにより実践しました。

日にち 平成24年2月26日(日)

場所 ふれあい福寿会館401小会議室

参加者 12名

講師 米勢 治子氏(東海日本語ネットワーク)

★参加者の声

コーディネーターの役割と重要性を知ることができた。対話中心の活動は、今までやっていた指導法とは全く違い、文型を教えるからではなくてもコミュニケーションをとることができる。現場でも活かしていきたい。



地域日本語教育全体会議

～外国人市民とのコミュニケーションのために～

やさしい
日本語講座

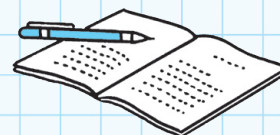
岐阜大学教育学部准教授山田敏弘氏を講師に迎え、県内の国際交流協会、日本語ボランティア団体、日本語学校、大学日本語教育機関を対象とした「地域日本語教育全体会議」を開催しました。どのようにすれば「やさしい日本語」で言い表せるか、地震に関するパンフレットを「やさしい日本語」で書き換えたりするなど、グループワーク形式で学びました。

日にち 平成24年3月16日(金)

場所 ふれあい福寿会館レセプションルーム

参加者 19団体 38名

講師 山田 敏弘氏(岐阜大学教育学部准教授)



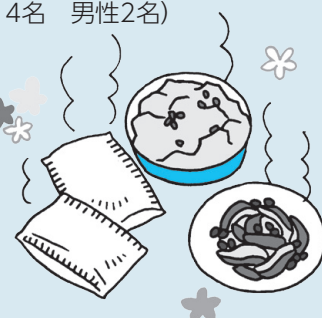
ABC 国際料理教室

従来の国際交流サロンの形を変える一つの試みとして、当センターは、料理教室を開催しました。国際交流員の3人が母国(Australia・Brazil・China)の料理を教えながら、参加者の皆さんと交流を深めました。

日にち：平成24年2月24日(金) 参加者：16名(女性14名 男性2名)

講師：国際交流員

サリー・ウォールズ(オーストラリア)、
森下・アンダーソン・実砂雄(ブラジル)、
顔 志雄(中国)



まずは、オーストラリア料理を作りました。伝統的なイギリス式のお菓子「ブレッド&バタープディング」です。パンにバターを塗り、中はとろりとしたカスタードで上はこんがり焼きます。皿にのせて、オーブンで加熱する間に、ブラジル料理の「パステウ」を作り始めました。ブラジルでは、「パステウ」はちょっとしたおやつに良く食べるパイです。最後は、中華料理の「ピリ茄子」。手の形になるように切った茄子を焼き、ネギやニンニクやトウチ(発酵した黒豆調味料)と一緒に炒めました。

会場では、参加者たちが3つのグループに分かれて、三ヶ国すべての料理を作りました。和気あいあいとした雰囲気の中、楽しい交流となりました。アンケートでは、「交流ができた」「料理が美味しかった」「外国料理の作り方を身に付けた」「また参加したい」という声が多く寄せられました。また、次回ご期待ください。



『茄子の交流』

国際交流員：顔 志雄

岐阜に来て、あっという間に10ヶ月が経ちました。皆さんに「さようなら」を言わなければなりません。私が主に携わっている国際交流事業の最後に、茄子の交流をあてることが、ちょっと意外でしたが、嬉しいことでした。茄子はごく普通の一般的な野菜ですが、この普通さ、この目立たないことが草の根の交流とまったく同じではなからうかと思えます。大きな理屈や細かい説教や売り込みも要らず、皆さんが料理に舌鼓を打たれば、その交流活動に深い印象を残すに違いないと思えます。また、この印象は料理だけでなく、直接に相手国のことや人を好きになることに繋がり、交流を持って友好を促す目標が自然に達成できるのではないかと思います。

日中の間にいろいろな問題がありますが、それらの問題の解決は多方面の努力が欠かせません。10ヶ月間、わだかまりの解消、信頼の増強、友好の促進を目指し、目立たなく見える草の根の交流における自分なりの目立たない力を発揮してきて、任務を遂行できたということが、ちょっと満足に思えます。これからどうぞよろしくお願いいたします。

(公財)岐阜県国際交流センター 平成24年度事業計画

公益財団法人岐阜県国際交流センターとしてスタートします！！

公益法人制度改革に伴い、平成24年4月1日付で公益財団法人岐阜県国際交流センターに移行しました。これからも多文化共生、国際交流及び国際協力の推進に取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

今回、移行後、初年度となる平成24年度の事業計画の主な事業を紹介いたします。

多文化共生の地域づくり

1 外国籍児童生徒支援事業

進路ガイダンスの実施、未就学者への学習教室、放課後学習教室、プレスクールの運営及び指導者育成研修を行い、進学や進路に悩む県内在住の外国籍の子どもたちを支援します。

2 在住外国人自立支援事業

外国人コミュニティ、外国人支援団体、国際交流協会等へのコンサルティングや研修を実施し、コミュニティリーダー等の意識啓発や解決能力の向上を目指します。

3 東海北陸ブロックでの災害時の外国人支援ネットワークの推進

東海北陸の地域国際化協会で構成する「災害時の外国人支援ネットワーク東海北陸ブロック研究会」の一員として、外国人に対する災害応急対策及び予防対策の支援体制づくりを行います。

4 外国人相談員配置事業

日本語及び外国語(ポルトガル語、タガログ語)が堪能な相談員を配置し、外国籍県民が日常生活で直面している様々な問題の解決に向けて、多言語による情報提供を行います。

5 日本語指導者育成支援事業

日本語学習支援ボランティアや日本語教室の立ち上げのための研修の実施、日本語教室連絡会議を開催し、日本語学習を支えるボランティアの育成、日本語教室が抱える課題の解決を目指します。

地域の国際化推進のための環境づくり

1 交流サロン運営事業

当センターに交流サロンを設置し、日本語教材や図書資料、国旗、会議室の貸出、カウンセラーによる「こころ」の相談等を通じて、個人や国際関係団体の活動支援、相談の場として充実を図ります。

2 情報提供事業

季刊誌「世界はひとつ」の刊行物やホームページを通じて、センターや国際関係団体等の取り組み等、国際交流や多文化共生に関する情報を多言語で幅広く提供します。

3 ハローギフ・ハローワールド開催事業

国際交流・協力団体、外国支援団体等が取り組む国際交流・協力活動を広く県民に紹介し、また、各国文化を様々なパフォーマンス、体験等を通じて紹介し、国際相互理解を推進します。

ボランティア・民間団体の活動促進

1 「医療通訳」や「災害時語学」等のボランティアの育成

「語学(通訳・翻訳)」、「日本語学習支援」、「ホームステイ」のボランティアの募集・登録、研修の実施、各種活動機会の提供を行い、県民参加による国際交流・多文化共生を推進します。

2 医療通訳派遣システム実証実験事業

県、医療機関、センターが連携し、医療通訳を育成し、通訳が良好な環境で業務に専念できる制度の構築を目指す実証実験を行い、外国人患者の不安軽減と医療機関の円滑な診療支援を行います。

3 国際交流・多文化共生推進助成事業

県内の団体又は個人が実施する多文化共生や国際交流・協力事業等に助成を行い、県民主体の国際交流・協力並びに多文化共生社会づくり事業を促進します。

●ポルトガル語による「こころの相談」

ご自身やご家族のこころの健康について悩んでいませんか。ブラジル人専門カウンセラーが無料で相談に応じます。秘密は厳守します。



相談日 : 平成24年5月11日(金) 27日(日)
6月1日(金) 24日(日)

時間 : 10:00 ~ 17:00 ※相談時間はお一人につき50分程度です。

相談場所 : (公財)岐阜県国際交流センター (岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中日ビル2階)

対象 : 県内在住のブラジル人

※予約制ですので、事前にお電話でお申し込みください。

申込・問い合わせ先：058-214-7700 詳細は、当センターのホームページでも確認できます。

●語学講座講師紹介

当センターでは、語学講座を開催しております。

4月から新しく始めましたフランス語講座の新講師ティボ・ムリス(岐阜県国際戦略推進課の国際交流員)を紹介します。



Bonjour à tous ! 皆さん、こんにちは、私はティボ・ムリスと申します。フランスから参りました。フランスで日本語を専攻し、日本に1年間留学した経験もあります。また、卒業後、栃木県国際課で国際交流員として働きました。2年間勤務した後、2011年7月末に岐阜県国際課で仕事をするようになりました。

私の趣味は、読書、英語・日本語・韓国語等の外国語の勉強、国内外旅行、お菓子作りなどです。出身地はフランスの北西にあるノルマンディーです。

ノルマンディーは乳製品のメッカといっても過言ではありません。ノルマンディーでは、カマンベールチーズをはじめ、バター、生クリーム、牛乳等、様々な乳製品が生産されています。皮肉にも乳製品生産地生まれの私はチーズ、生クリームやバターなどが苦手で、そのまま食べられません。(お菓子なら大丈夫です)。

なお、ノルマンディーは大西洋に面しているので、カキ、ムール貝などの魚介類も新鮮でおいしいです。

私が生まれたカーン市には、征服王のお城をはじめ、中世の遺跡が多く、中世的な雰囲気を肌で感じることができます。町並みもキレイなので、是非機会があれば、遊びに来てください。世界遺産のモン・サン=ミッシェルもノルマンディーの西南端に位置しています。

チーズを食べられないフランス人の私ですが、皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

お知らせ 平成24年度賛助会員を募集しています!!

当センターの趣旨に賛同し、会費という形で当センターの活動を支援くださる賛助会員を募集しています。賛助会費は、県内の多文化共生・国際交流・国際協力の公益目的事業に役立てられます。

会費 個人会員…3,000円/□ 団体会員…5,000円/□
※年度途中での入会の場合、会費は月割りとなります。

期間 申込日～平成25年3月31日

特典 センター機関誌「世界はひとつ」等の送付
センターが実施する事業のご案内
有料講座・イベントの参加費割引や優先参加

※詳細は当センターのホームページをご覧ください。お電話にてお気軽にお問い合わせください。



皆さま、こんにちは。岐阜県JICAデスク栗原です。
4月はわくわくドキドキ新生活のスタートですね。
同デスクも交代の季節となりました。1年3カ月という短い間でしたが、
皆さまのおかげで楽しく仕事が出来ました。ありがとうございました。
それでは、後任をご紹介します。

八百津町出身の各務茉莉です。

青年海外協力隊でガーナへ派遣されて
おりました。2年3ヶ月の任期を終え今年
の1月末に帰国したところです。

この度は念願だったJICA国際協力推進
員の仕事を地元の岐阜県でさせていただく
ことになり、とても楽しみにしております。

至らない部分もあり
ますが、一生懸命頑張
りますのでよろしくお
願いいたします。



あなたもJICAボランティアに 挑戦しませんか?

募集期間：平成24年4月1日～5月14日

対象：20～39歳(青年海外協力隊)
40～69歳(シニア海外ボランティア)

募集に合わせて全国各地で募集説明会を行います。
協力隊、シニアボランティアOB・OG活動紹介や、個別
応募相談も開催いたしますのでお気軽にご参加ください!

4月25日(水) 18:30～20:30
会場：ふれあい福寿会館

詳細はHP (www.jica.go.jp) まで!! **予約不要・無料**



～海外ボランティア、国際理解講座など、お気軽にお問い合わせ下さい～

岐阜市柳ヶ瀬通1-12岐阜中日ビル2階 岐阜県国際交流センター内
岐阜県JICAデスク 岐阜県国際協力推進員 各務 茉莉(かがみ まり)
tel: 058-263-8069(直通) E-mail: jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp JICAホームページ www.jica.go.jp

